

今晚 7時より  
 西成市民館 3階 集会室  
 (西成署ウラ 火越出し公園前)  
 釜ヶ崎夜間学校

お盆には一万円握って  
 三角公園に集まろう!  
 とは 何のこと???

# 夜間学校

釜ヶ崎夜間学校  
 西成区越之木 5-5-23  
 釜ヶ崎解放会館 2階  
 釜日労 争議団 気付

## 満身の怒りをこめて

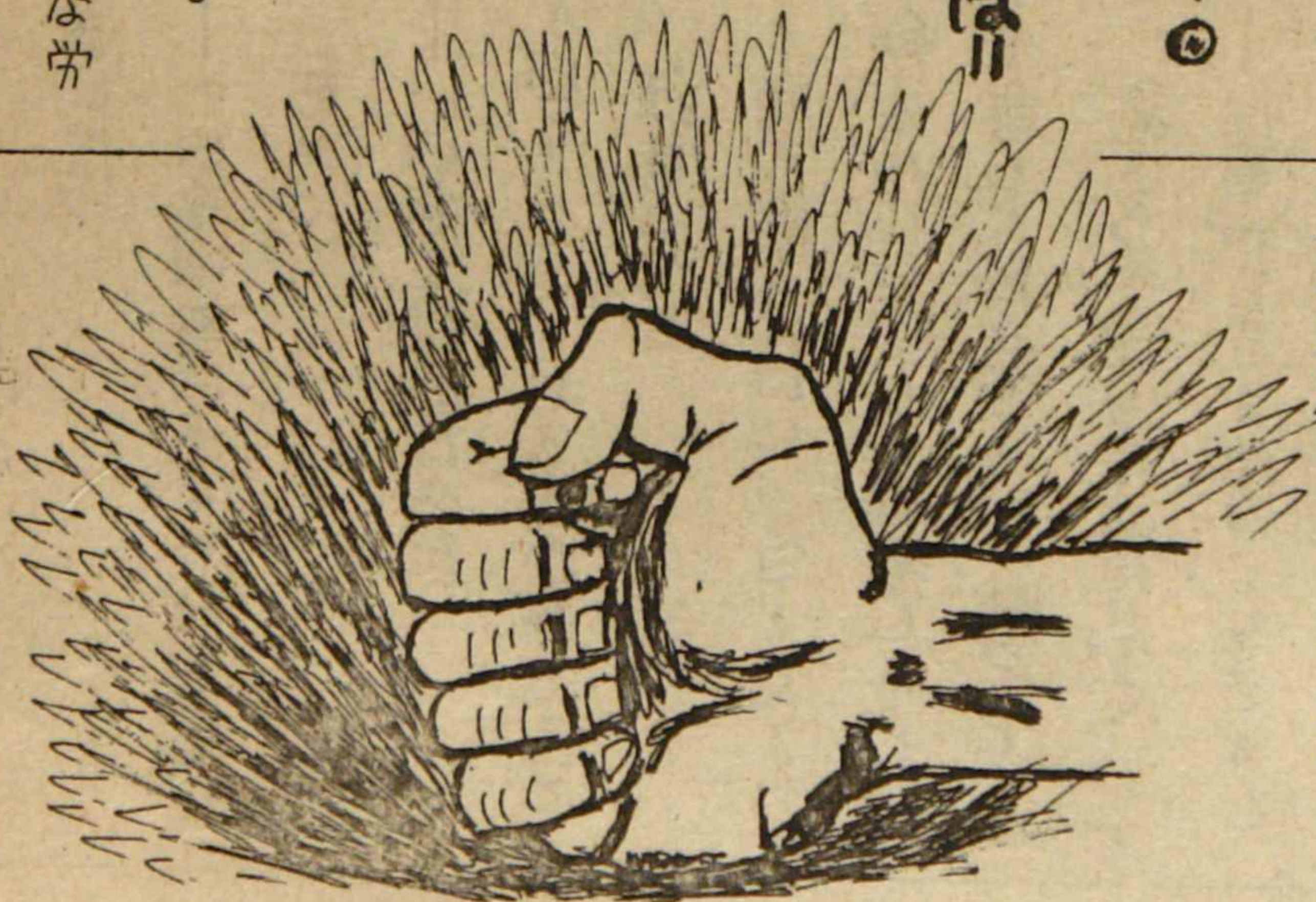
## 打ちおろす!

## どっへへ?

### 「寿の仲間への差別・殺傷事件の真の敵は」

釜ヶ崎夜間学校は、横浜の寿でおきた青カンしている仲間に対する差別・殺傷事件について、強い憤りをもって話合ってきました。これまでには主として、被害者の立場、仲間であることの確認、我々が今、青カンしていないことと青カン者との違点、同質性などについて論議してきました。事件のおきた寿において

は、二月二十七日、寿日雇労働者組合のよびかけで、浮浪者ら連続殺傷事件の本質とは?・我々の反撃の闘いを考える 二・二七討論集会が開かれました。これには地元の様々な労働組合や教育労働者、市民そして部落解放同盟など百二十名の人々が参加しました。もちろん、山谷、笹島



の仲間達も参加し、釜ヶ崎からは、釜日労、争議団、キリスト教越冬委員会、そしてわが夜間学校が参加しました。

集会の翌日の二十八日には、討論をふまえて、横浜市へ抗議行動をおこしました。

横浜市内で座り込みを

おこなひ、民生局長らを引きつぱりだして、抗議と今後

質しました。

さて、釜ヶ崎は横浜から遠く離れており、怒りはあるもののコブシの打ちおろしようがない、という気もしますが、それは正しいでしょうか。

多くの仲間から聞いた話によると、釜においても、青カンしている仲間が、中学生らしき二、三人に殴られたり、寝ているダンボールに火をつけられたり、アキ缶を投げつけられたり、という被害をうけているようです。

寿でおきたことは、釜でも山谷でも笹島でもおこりえるし、現に、小さな被害はすでに受けている。

中学生が我々の敵か、それとも労働・福祉を担当する行政か、それとも我々日雇を差別する道ゆく一般の人々か、真の敵は誰。どこにいる。

# 第4期 第8回報告

## 我々が生きのびるためには

### どうすればよいかー

我々をして、仕事にいかせるものは

食うために！ 飲むために！

寿において、日雇労働者が少  
 年らに虐殺された事件は、世間  
 の風潮が作り出したものと思  
 われます。日雇労働者が生きら  
 れない時代がきているとしたら  
 それこそ、日雇労働者が生きて  
 いるということを知らせる必要  
 があるのではないのでしょうか？  
 そのため、我々が、今、こ  
 こに生きているということと、  
 考える中から、生きこいく活力  
 を見出し得ないか、と思い、  
 話し合いがなされました。

前回、寿の事件から、青カン  
 の問題を考えた時、青カンを強  
 いられている仲間と、青カン  
 をせずに生活している我々との  
 ちがいはどこにあるのか、とい  
 うことについて話し合いました。  
 “青カン”している人と、“青カ  
 ン”をせずに生活している人の  
 間に、はっきりした線がない限  
 り、“青カン”している人の向  
 題は、自分自身のことにつなが  
 ってきます。

にいかせるものは何なのでしょ  
 うか？

そこら辺のことを、前回は続  
 いて今回も話し合いたいと思  
 いました。

- ー一回千四百円のトヤ代を稼ぐ  
 ために
- ーいい酒を飲むために
- ーギャンブルやるのが楽しくみ  
 仕事に行く
- ー酒も飲みたいし、コーヒも  
 飲みたいし、バクチもしたい。
- ー金もちであるうが、貧乏人  
 であろうが食うために働く。
- ー仕事ができる限り、生きるし  
 か道がない。それしか何も考  
 えることはない。
- ー飲む、打つ、買うしかない。
- ーいろんな人と話しかける。
- ーワシの知っている人で、タバ  
 コ吸わない、酒飲まない、キ  
 ャンブルしない人がいる。そ  
 して、仕事をしないというの

が道楽。

ー飯場に行く。まずは飯を前に  
 した時、一々葉集を思い出すこと  
 がある。“命がぶしから生き  
 ている”

ー一ツの所帯をし、こどももがい  
 て、男として責任がこきたら、  
 よく仕事に行くようになる。独  
 身者は自分の身を守るだけや。  
 などの意見がありました。

寿の事件のように弱者同志が  
 殺し合いをしていくことや、多く  
 の仲間が行旅病死させられていく  
 現実、まさに、日雇労働者の運  
 命を如実に示しています。

ここから抜け出すためにはどう  
 すればいいのでしょうか？ どう  
 力を合わせて、我々の力を示して  
 いくことができるのでしょうか？

“明日起きたら目がさめなかつた  
 らいー”と思いがらごも、なぜ  
 生きているのか、ということと、  
 しょ、と向い続けたいと思います。